

公開講座

入場無料
当日受付

平成30年 **10月21日** 日
13:00 ~ 15:30 (12:30 開場)

会場：放医研重粒子治療推進棟
2階大会議室 (定員 120名)

「重粒子線がん治療」と 「科学で支援する福島再生」

講演 1

13:10 ~ 14:10

放射線治療が難しかった消化器癌に対する
重粒子線治療の効果と展望

山田 滋：病院 消化器腫瘍科

講演 2

14:25 ~ 15:25

東電福島第一原発周辺への環境影響研究
～ 7年のまとめ

府馬 正一：福島再生支援本部

お問合せ

放射線医学総合研究所 研究企画室 研究推進ユニット
TEL：043-206-3193 E-mail：h30koukai@qst.go.jp
詳細は放医研ホームページで



主催：国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構
放射線医学総合研究所
後援：千葉市

放医研へのアクセス

ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。

徒歩 JR 稲毛駅東口より約 12 分

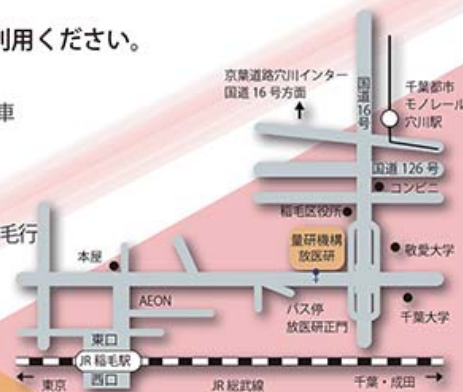
バス JR 稲毛駅東口 2 番乗り場より乗車

→「放医研正門」下車

*現金の場合のみ 100 円

稲 31：山王町行、

稲 33：ザ・クイーンズガーデン稲毛行



プログラム

13:00～13:10 開会挨拶 野田 耕司 放医研 所長

講演1

13:10～14:10

放射線治療が難しかった消化器癌に対する重粒子線治療の効果と展望

山田 滋 病院 消化器腫瘍科

従来、消化器癌に対する放射線治療は、根治治療として施行されることは希でした。これは、消化器癌が放射線抵抗性とされる腺癌であることが多いこと、また、癌周囲の放射線感受性の高い消化管や膀胱等を避けることができず十分な線量を癌に照射することが困難なことが理由でした。重粒子線治療は、線量集中性が高く癌のみに選択的に照射が可能であり、かつ粒子が重いことから生物学的効果（殺細胞効果）の高い治療が可能であるという特徴を有しています。今回、膵臓・肝臓・大腸癌等の消化器癌に対する重粒子線治療の成果と展望を紹介いたします。

14:10～14:25 休憩

講演2

14:25～15:25

東電福島第一原発周辺への環境影響研究～7年のまとめ

府馬 正一 福島再生支援本部

東電福島第一原発事故によって放射性物質が環境中に放出され、そこに棲息するヒト以外の動植物も放射線被ばくを受ける状況になりましたので、環境の健全性についての調査が必要です。放医研では7年間にわたり、主に、放射線量が高い帰還困難区域で野生生物の放射線影響を調べてきました。この講演では、いくつかの生物での調査研究事例を紹介し、今後の福島再生に向けた環境影響研究を展望していきたいと思えます。

15:25～15:30 閉会挨拶 北川 敦志 放医研 研究企画室長

講師プロフィール



山田 滋

量子科学技術研究開発機構
放射線医学総合研究所
重粒子線治療研究部 部長
(病院 消化器腫瘍科 科長)
千葉大学大学院医学研究院 客員教授併任



府馬 正一

量子科学技術研究開発機構
放射線医学総合研究所
福島再生支援本部
環境影響研究チーム
チームリーダー

略歴

1985年 三重大学医学部 卒業
1995年 千葉大学医学部 医学博士号取得
1985年 千葉大学第二外科（現食道胃腸外科）医員
1989年 放射線医学総合研究所臨床研究部研究生
1992年 千葉県がんセンター消化器外科医長
1996年 米国 NASA Johnson Space Center, Postdoctoral Fellowship
1998年 放射線医学総合研究所 重粒子医科学センター病院治療課医長
2010年 重粒子医科学センター病院治療課室長
2016年 重粒子線治療研究部骨盤部腫瘍臨床研究チームリーダー
2017年 重粒子線治療研究部長（現在に至る）

略歴

1993年 筑波大学第二学群生物学類 卒業
1995年 筑波大学大学院環境科学研究科修了
1995年 科学技術庁放射線医学総合研究所入所
以後、微生物や両生類を対象とした放射線の環境影響研究に従事して現在に至る